



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2002-2003

6月 ガバナー月信 No.12

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760 2003年6月1日発行



百華文耳付大壺

6月はロータリー趣味・職業別親睦活動月間です。

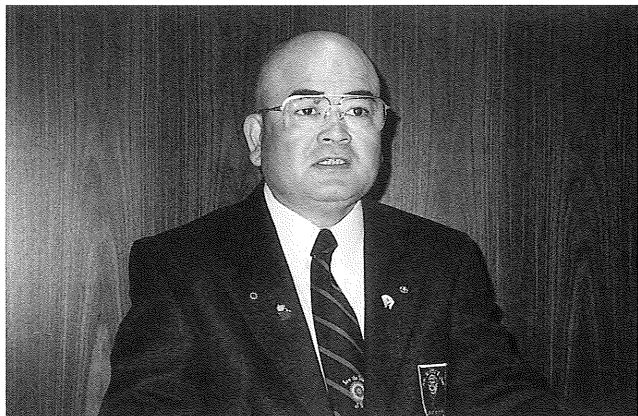
ガバナーメッセージ	2	ロータリー財団奨学生レポート No.1	14
「座談会」「出会いの館」として期待されるロータリー館	4	地区協議会指導者会議報告	16
第10回ロータリー青少年交換研究会『青森会議』及び 第1回ローテックス全国会議	8	大府RC創立総会	17
研究グループ交換(GSE)派遣	10	環境保全委員長会議	17
2003-04地区協議会報告	12	文庫通信	18
岡崎東RC創立30周年	13	出席報告	19

国際ロータリー第2760地区 ガバナー 岡部 快圓
〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内
TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023 E-mail : governor02-03@rotary2760.org

Governor Message

ガバナー・メッセージ

ガバナー 岡部 快圓



ロータリーの名称

1905年2月23日4人の若者によって結成されたロータリーも2005年には、100周年の節目を迎えようとしています。この間、拡大を続け、地域社会に、世界に多くの慈愛の種を播いて来ましたが、我々の愛するクラブがどのような経緯でロータリークラブという名称が付けられたのでしょうか。

三回目の会合において名称の検討がなされました。

ロータリークラブという名前が決まったいきさつは次のようなものでした。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

彼らは、自身たちのことをブースタークラブBooster Club（推進者）と呼ぶことを考えついた。

「ブースター？ 電圧の上昇？」

辞書はその意味を、前進を助けるために、下から持ち上げるか押し上げると解説している。悪くない！現在のアメリカのはやり言葉だ。どんな都市にも、ど

んな小さな町にも、大学や高校は、ブースター組織を持ち、その数は少なくとも20以上はあるだろう。

しかし、思慮深い考えが、ハリスとシールに、その名前をクラブにつけることを思い留まらせた。我々はシカゴを押し上げることに興味があるのではないし、いわんやこのクラブを押し上げることもないことを指摘した。すでに、そのような義務をもっている商工会議所という特別な組織ができていると、ポールは説明した。クラブの会員の望みは、世間の注目をあびている彼ら自身を“押し上げる”ことではないのか。彼らが望んでいるのは、相互取引によってより多くの金を稼ぎ、毎週の例会でささやかな楽しみを持つことだった。

ラウンド・テーブル・クラブthe Round Table Clubはどうだろうと、誰かが提案した。これもまた悪くはない。アーサー王の円卓会議は、重要な人が参加することで有名であり、高貴でもあった。しかし、その名前には新鮮味がなかったし、新しい国の生き生きした都市には、まったくふさわしくなかったし、皆もそう思った。

ポール・ハリス自身は、クラブに対する彼の考えを率直に言い出してくれたことに感謝の念をいだいた。「コンスピレーターズ・クラブ（共謀者）the Conspirators Clubと呼んではどうだろうか？」

長時間、誰も一言も発しなかった。彼らはその名前のことを考えて座っていた。ついに、たまり兼ねた一人が尋ねた。

「なぜ 共謀者なんだい？ 我々は何を共謀しようとしているのかい？ その言葉は、普通、あまり良くない行為を意味すると思うんだが。」

ポールは必ずしも、そういうふうには考えなかったけれども、言外の意味が、本来の趣旨を混乱させるかもしれないと考え、その意見に賛成した。提案は却下された。

○ザ・シカゴ・フェローシップ

..... the Chicago Fellowship

- ザ・ブルー・ボーイズ
..... the Blue Boys
- シカゴ・サークル
..... Chicago Circle
- ザ・レイク・クラブ
..... the Lake Club
- FFFクラブ
- メン・ウイズ・フレンズ
..... Men with Friends
- フレンズ・イン・ビジネス
..... Friends in Business
- トレード・アンド・トーク・クラブ
..... Trade and Talk Club
- ウインディ・シティ・ラウンドアップ
..... Windy City Roundup

等々の1ダースを超える候補名が卓上を賑わした。ビシッと決めるような発言をする人は誰もいなかった。

最後に誰かが言った。

「我々はお互いの事務所で、一種のローテーションを取り決めて、会合を開いている。ロータリークラブ Rotary Clubと呼んだらどうだろう。」

残念なことには、その言葉を誰が発したのか、幹事はそのことを記録していなかった。1年後には、そのこと自体を誰が覚えていたかすら疑わしくなった。現在、そのことを知っている人がいないことだけは確かである。

実際は、他の名前が閃かなかっただけのことである。ロータリーとは、その文字通りの定義は軸を中心に車輪が回ること、または回るための部品を意味する。お互いに例会場所を交代するという漠然としたことを除いて、人々の社交と実業のクラブに適用する必然性はどこにあるのだろうか？ 明らかに、彼らはその名前を安直な方法で了承した。それは、名前や参考上の便宜として役立つものに違いないし、彼らが必要と感じていたことはそれだけであった。後年になって、会員の誰かが素晴らしい思いつきをすれば、いつでも名前

を変えることは、多分可能であろう。

長期の観点から見れば、その考え方はまだまだ甘い。現在の例会はローテーションして開催されていないので、その名前は1905年におけるものより、更に無意味である。一方、クラブの名前は人の名前に似ている。それは決して名声によって生まれたものではない。どのような名誉も栄光も、それは勝ち取るものであって、これは王や王子にさえあてはまる。ジンギス・ハーンは、軍隊を引き連れてアジアを嵐のごとく横断したことを除外すれば、名も知れぬ野蛮人だったし、ナポレオンは、自分で自分自身をむりやり高い位に就けるまでは、名も知れぬ軍人に過ぎなかった。コロンブス、ワシントン、リンカーン、エジソン、アインシュタイン、シュバイツァー、彼らは、重ねた年月が彼らの名前を輝かしいものにする運命を切り開くまでは無名の存在であった。

“ロータリー”そのものが、ロータリーという名前を再び定義しなおしたのである。ロータリーは生まれつきではなく自分自身の努力で、偉大さを表す同義語にまで成長した。記念碑や摩天楼がそびえ立つように技術的、物理的にではなく、理想を背景として概念的、精神的、象徴的にそびえ立っているのである。

[Golden Strand ---Oren Arnold--- 田中毅訳]

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

この三回の会合の何れの日をもってロータリークラブ設立とするかについては、最初に会合が開かれた日であるとか、規約が定められた日とか、法的に幾つかの解釈もありますが、R I 理事会は1905年2月23日に開かれた会合を最初の会合と認めて、この日をロータリー創立の日と定めています。

2005国際博委員会座談会

テーマ

「出会いの館」として 期待されるロータリー館

出席者 委員長：内藤明人
副委員長：岩間俊夫、川村悌式
委員：國分孝雄
進行係：地区副幹事 浅井隆宣

司会：皆さんはすでにご存じでしょうが、我々ロータリークラブは2005年の国際博覧会（愛・地球博）への参加が決定しております。その開催もいよいよ目前に迫って参りましたが、今回はロータリー博覧会事業の中心となり、ご活躍される「2005国際博委員会」の方々にお集まりいただきました。まずは内藤委員長、これまでの委員会の経緯をざっとご説明いただけますでしょうか。

内藤：実はもう20年以上も前のことですが、大阪万博の時、ある会館の一画を借りてロータリークラブも出展したんですね。当時は小規模なものでしたので、今度の国際博ではぜひしっかりとした“ロータリー館”を造ろう、というご意見が1997-98年度の犬飼ガバナーの時に持ち上がったわけです。そこで翌年、私がガバナーを務めさせていただいた際、計画を推し進め、1999年10月、野村ガバナー年度に諮問委員会で決定が下された、という経過を辿りました。

岩間：当初、愛知県や政府のパビリオンを借りて、という考えもあったのですが、いろいろ複雑な問題も絡んでロータリー単独で行なうことになったんです。



内藤：万博協会もロータリーが真っ先に「単独でパビリオンを建てる」と名乗り出たものですから、非常に期待も大きくてね。それで迎賓館前という大変良い場所をいただけましたし、半永久的に残るものを造って欲しいとの依頼もあったわけです。國

分さんには大変、素晴らしい設計をしていただいたんです。ところが昨年の暮れになり、急遽、会場は全部取り壊すという方針の大転換がありました。

司会：じゃあ180度違ってしまったわけですね。

川村：ええ。最初のプランでは4億円以上のものを考えていましたので、取り壊すとなれば資金計画を大幅に縮小せねばなりません。再度計画を練り直し、当初のプランと遜色ない、利用価値の高いものを設計していただいたということです。

内藤：最終的には2億数千万円と、当初の予算の半分ほどですが、150人収容できるホールや展示室を備えた素晴らしいプランが完成しました。現在、この施設をより

有効活用できるよう、委員会の皆さんにご努力いただいている段階です。

司会：その具体的な活用方法といえますと？



内藤：まずはホールを例会に使っていただくことですね。万博開催中、県内の各ロータリークラブで少なくとも例会として2度ご利用いただければと思います。

岩間：以前、皆さんからいただいたアンケートをもとに、まあ2回が適当だろうということになったんですね。展示室については、2005年は国際ロータリーの創立100周年にあたる意義深い年で、そのPRを兼ねた展示なども行なって、ぜひ一般の方々にもこの機会にロータリーへの理解を深めていただこうという狙いがあります。

司会：ではロータリー館というのは、各クラブの例会機能と一般の方への情報発信機能、その2つを備えたパビリオンということでしょうか。

内藤：はい。加えて、万博協会側からはロータリー館に「出会いの館」としての役割が期待されています。ロータリアンだけでなく、日本中、世界中の人々の出会いの場となるよう、ぜひ一般の方にも施設を開放して欲しいという依頼を受けています。

岩間：これは万博協会の坂本事務総長も盛んに強調されてみえますが、“出会いの万博”という今回の博覧会のテーマに対応するためにも必要なことでしょうし、同窓会や結婚式、さまざまな行事に使用させて欲しいというのが協会側の意向なんです。

司会：つまり世界中の人々のための、オープンな施設でもあると理解すれば宜しいですか。

内藤：そうです。ですから協会側からの期待も大きいですし、社会奉仕、パブリックサービスという面でも非常に良いことだと思います。

川村：つけ加えますと、ロータリー館は万博協会とシェアするカタチになるわけです。例会に使用するとしても2時間程度のことで、ロータリーが使わない時には博覧会協会が使う。ですから出会いの館として、ロータリアン同士の出会いもあれば、一般市民との出会いもあるわけで、具体的にどう活用していくかについては、ロータリーと協会とが一緒になってこれから考えていこう、ということになっています。もちろん、ロータリアンのための憩いの場としての機能も持たせる計画ですし、国内外から訪れるロータリアンにはメンバーカードをお渡しすることも考えておりますので、ロータリアンが気軽に立ち寄れるような場所にしていきたいと思っています。そのためにも全国2000のクラブに、ロータリー館への要望や博覧会に来ていただけるか

どうか、また例会を催していただけるかどうかなどアンケート調査を行ないますので、そちらへのご協力もお願いしたいと思います。

司会：地区外のクラブに例会を開いていただくとなると、より一層、施設の具体的な内容も詳しくご案内できるといいですね。

川村：はい、その通りです。ちなみにホールはセパレートできますので70～80名の例会も可能で2つの例会を同時に行なえます。今後そうしたPRと啓蒙を兼ねて全国のクラブにご案内するつもりです。

司会：ところで國分さん、ロータリー館の設計についてはどんな点にポイントを置かれたのでしょうか。

國分：まずその前に、内藤委員長からもお話がありましたが、今回のパビリオンは愛知県館や政府館のごく一部を除いて、すべて仮設ということになったんです。結局、施設を運営する事業者など、博覧会後の方針がまだ白紙の状態ですから、とりあえず仮設でいくより方法がない。それで大幅な見直しを図ることになったのですが、同時に「リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）・リデュース（使用削減）」という“EXPOルール”も遵守しなければならない。厳しい制約もありましたが、利用の仕方、協会側からの期待、そして皆さんのニーズに可能な限り応えられるよう具現化に努めた次第です。



司会：なるほど。外観はどんな感じになるのでしょうか。

國分：何といたっても世界の要人を招く迎賓館の前ですし、シンプルでありながらも日本的な感覚を持った建物を計画しました。イメージとしては「行灯」のような…おそらく海外の方はこの建物をご覧になって日本的なものを感じていただけたと思います。具体的には瓦が乗った日本家屋というよりも、校倉づくりの影響を受けた建物、といった感じでしょうか。

司会：完成が待ち遠しいですね。先ほど、メンバーカードのお話がありましたが、万博を訪れ

た日に、誰もが必ずしも例会に参加できるとは限らないですね。

岩間：はい、現時点では開催期間中、訪問していただくだけでもお渡ししたいと考えています。

川村：正直、具体的な運営計画についてはまだ固まっていないんですよ。今年の秋には前売り券も発売されますので、それまでにはある程度、決めておきたいとは思っているんですが…。

内藤：結局、仮設への方針変更もそうですが、万博自体、なかなかまとまらない空白の期間がありましたね。誘致するまでは愛知県が主体だったんですが、いざ決まると国のイベントだから、ということでここ2年ほど迷走してしまった。でも、ようやく昨年あたりから地元と国との連携体制が出来上がり、我々もやっと具体的に活動できるようになったというわけです。

川村：以前、2760地区の全クラブから1名ずつ、「万博運営委員」として、幹事以上の経験者を選出していただいて委員会を行なったんですが、中身が決まらないもんですから、まだ1度しか開催してないんです。しかしこれからは、かなり活発に活動していくことになると思います。

内藤：その80名の委員の方は年度ごとに変わらないんだよね。

川村：はい。万博が終わるまでご担当いただきます。

司会：失礼ですが、事業の中心となってお活躍される委員の方と、一般のロータリアンとの間にはどうしても温度差がありますよね。

國分：私自身、ロータリー館を建てる意義の中で、どうも見落とされている部分があるように感じるんです。何かと申しますと、今回の博覧会は大阪万博から始まった近代の万博の流れを大きく変えていこうというもので、そのいちばんの特長というのが「市民参加」なんです。営業参加、出展参加、展示参加、ボランティア参加…いろいろな参加のカタチがありますが、そうした万博にロータリー館を建てるというのは、ロータリーもオフィシャルに万博に参加する、ということです。公式なガイドブックにも記載されるわけですし、その辺りをロータリアン一人ひとりが意識するようになれば、もう少し温度も上がってくるように思います。ロータリー館を建

設することは、確かにロータリーにとって意義深いことですが、同時に「博覧会自体の理念なり事業に参加しているんだ」という意識を持つことも非常に大事なんじゃないでしょうか。

司会：そうした部分もアピールできれば、皆さんの熱意を次年度の方にも継承していけるんじゃないでしょうか。

川村：我々の世代で、今後、愛知県で万博が行われる機会にめぐり会えることはないでしょう。これはそうした意味のあるイベントに参加できる、まさに千載一遇のチャンスです。しかも他の団体もいくつかありますが、パビリオンを建設するのは我々ロータリーだけです。当然、費用もかかりますし、皆さんも大変でしょうが、やりがいは大いにあると思います。そのためにも

2760地区のロータリアンが核となり、全国のロータリークラブに啓蒙、PRをしていく。そしてさらに国内外のロータリアンの方にメーキャップしていただければ最高です。まずは県内の各クラブの皆さんに、最低2度は例会を行なっていただくことからお願いしたいですね。

司会：となりますと、今後の課題としては、いかに多勢の方々に会

場まで足を運んで頂くか、ということでしょうか。

岩間：いかにせん入場料が高いですからね。一般当日券が4,600円、65才以上は3,700円なんです。

司会：それで例会を2回、となると、地区の皆さんにとっては結構な負担になってしまいますね。

岩間：はい。ただ前売りですと一般が3,700円、65才以上で3,000円になりますから、ぜひご利用いただきたいと思います。これから実施する全国へのアンケートでは前売り券の予約も取るつもりです。

内藤：あと課題としては寄付金的问题があります。実はまだ目標額に達していないんです。万博自体への寄付は、地元だけでほぼ集め終わったようですが、せっかくの機会ですし、ロータリー100周年も兼ねるわけですから、なんとかご協力をお願いしたいですね。

岩間：そのことですが、「法人として寄付をしたいが税制上の問題が」という方もみえますね。

川村：そうですね。万博協会へ寄付する場合は税金控除の対象になるようですが、それをロータリー



の方で使ってください、というわけにはいかないんです。すべて協会の運営費用になってしまふ。

司会：たとえばロータリーのための税金控除の受け皿をもうけてもらうわけにはいかないんですか？

内藤：では一度、万博協会と相談して、ぜひいい方法を見つけることにしましょう。ただいずれにせよ、地区外からの寄付についてもバラつきがあるもんですから、もっとPRしないと…。

國分：万博自体のPRもまだまだ不足していますし、かつての反対運動は収まってきましたが、一方ではそれまで支援してくれていた人たち、事業の経営者であるとか、この地域で社会的な立場にある方々がシラケ気味になっているんです。逆に、それこそ工事を阻止しようと重機の下に寝転がったような強烈な反対派、自然保護派の人たちが今度は支援にまわってくれています。

司会：そういえば以前、海上の森を見守るボランティアの方と話したことがあります。彼らは反対どころか、自然とふれあう機会になると歓迎していましたよ。

國分：結局、ハチマキを巻いて反対されていた方も、ここまできたらいいカタチにして欲しい、市民参加ということなら自分たちも参加しよう、という意識に変わってきたんです。ですからこの地区のロータリアンの方々も、じかに博覧会に接すると申しますか、ちょっと耳を傾けるだけで接するチャンスはいくらでもあるんです。たとえば川村さんがやっておられる合唱も、その延長線上に博覧会があるわけですし、ぜひ多方面からご協力いただければと思います。

司会：その合唱というのは？

川村：国際博覧会委員会の主催で「2760地区国際チャリティコンサート」をやろうと、ちょうど練習を重ねている最中です。名フィルに演奏をお願いしますし、ぜひそちらへも足をお運びいただきたいですね。

司会：そうしたイベントや、練習で皆さんと繰り返し顔を合わせる過程も、万博への参加意識を高めることに結びついていくんでしょうね。

國分：もうひとつ、ぜひお伝えしておきたいんですが、現時点で81カ国、7国際機関、最終的には100カ国以上の参加をめざしています。それで開催

期間中には、「ナショナルデー」といって1日1ヶ国、職員の懇親パーティを行なうんですが、万博協会からそのためのホール機能がロータリー館に託されているんです。また、迎賓館前に建設されますので、各国の準VIPのレセプション会場に使わせて欲しいという要望もあります。ですから、ロータリー館はすでに万博に不可欠な存在になっているんです。

司会：それは何としてでも我々の手で成功させなければいけませんね。

川村：記念すべきロータリー創設100周年ですし、この2760地区から全世界に向けてロータリーの歩みを発信する、そうした役割もありますから。また、100周年にちなんだ2760地区ならではのイベントができれば、さらに意味があるんじゃないかと思います。

岩間：展示室の方ではロータリーそのものの歴史と役割、奉仕の実態、たとえば米山奨学事業であるとか、そうした活動内容を一般の方にもわかりやすく伝えようということになっています。

國分：実はいま、ひとつのアイデアとしてポール・ハリスの遺品を展示しよう、という計画もあるんですよ。

司会：なるほど、それはますます興味深いですね。

川村：シカゴにポール・ハリスの執務室というのが残されていますが、その調度品を借りてきて執務室を復元しようとか。やはりロータリーの源流ですし、ロータリアンの方ならきっと見たいですよ。

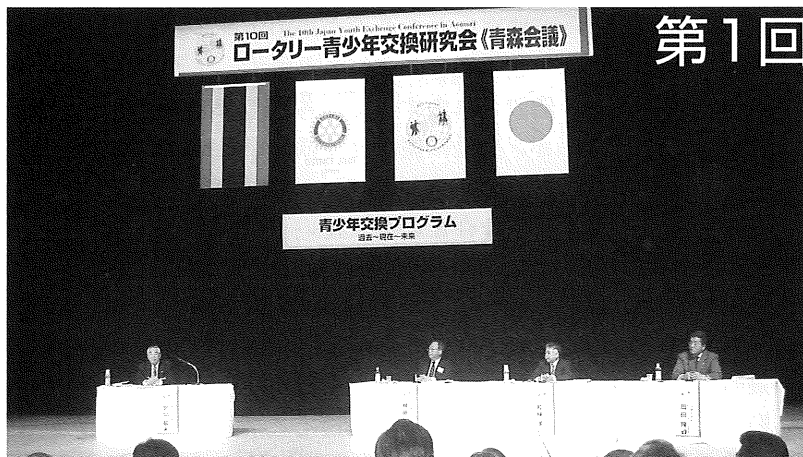
司会：たとえばそれに関連したグッズ、お土産品なんてであると喜ばれるでしょうね。

内藤：ええ。そういうアイデアもロータリアンの皆さんにどんどんご提案いただきたいですね。地球規模での国際親善、世界的親交の舞台となる、万博への参加意識をお持ちいただいて、ともに奉仕の喜びを味わい、ロータリー100周年を祝うことができたと存じます。この場をお借りして、ロータリアンの皆さんに改めてご協力をお願い申し上げます。

司会：本日は皆様、ご多忙のところ、どうもありがとうございました。



第10回ロータリー青少年交換研究会『青森会議』及び 第1回ローテックス全国会議



日時 2003年4月26日(土)・27日(日)

場所 ぱ・る・るプラザ青森、ホテル青森

ビチャイ・ラタクル RI 会長をお迎えして

RI 青少年交換委員 在日委員
神田 憲

会を重ねて10回、全国地区持ち回りで年1回開催される、ロータリー青少年交換研究会に、板橋敏雄RI理事のご尽力によりビチャイ・ラタクルRI会長が出席されました。

当日は天候が悪く、青森空港に着陸出来ずUターンした便や、仙台空港に着陸した便もあり、ビチャイ会長の到着を心配しておりましたが、ビチャイスマイルで会場に姿を現され基調講演をされました。

『青少年交換プログラムは70年以上も継続され、ロータリーに於いて最も人気が高く成功しているプログラムであり、毎年1万人の青少年（高校生）が親善大使としてその国の文化・習慣・歴史・語学等を学ぶ為に世界中に羽ばたいております。彼等こそまさしく“慈愛の種”を持った子供たちです。

このプログラムの成功の秘訣は

1. 派遣学生をよく選択すること—Selection
2. 的確な Orientation の遂行、どこへ派遣するのか、又任務の認識を教える事
3. 派遣／受入に係わる適正な経費の確保

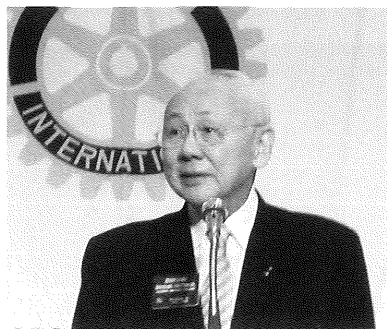
このプログラムを活用する青少年の将来をも左右しますので、派遣前に十分な知識を与える事が今日お集まりの全国青少年交換委員の皆さんの責務として大変重要なことです。

1963年このプログラムでタイからオーストラリアのヴィクトリア州の小さな町のRCに、15才の少女を派遣しました。ロータリアンだけではなく町の人びとからも愛されたこの少女は派遣期間を3ヵ月残し、脳腫瘍のため突然亡くなりました。タイから駆けつけたお父さんに、ホストRCの会員がこの少女をどうしたらいいのか問いかけた処、娘はこの町が好きであり、RCや町の人々に可愛がられていたので、この地に埋葬されることを望んでいると思いますと申し出ました。

当時、自分がガバナーエレクトとしてNew Yorkでの研修中にこの知らせが入りました。

研修終了後、直ちにオーストラリアに飛び、その墓標には少女の名前とタイからのロータリー交換留学生であり、皆さんからこよなく愛されていた事が表されていました。

この少女は素晴らしい交換をしていました。その上にこの悲しい物語が重なり、タイとオーストラリア両国の強い絆を結



んでくれました。

また昨年ですが、アメリカの少女が外国でいろいろな事を学びたいと、希望を持っていたのですが金銭的に難しく、たまたまこのロータリー青少年交換プログラムを知り、申込みをしました。しかし本当に自分がタイに留学出来るのか疑いをもっていたそうです。

この少女が派遣前に私に手紙を送ってきました。その内容は - 初めての海外生活でタイのことも何も知らないし、自分に何が出来

るのか迷っています。そこで自分自身がアメリカの花になり、ロータリーに対する感謝の気持ちを表わせば、きっとタイの人は理解し気に入ってくれるだろうと考えました。また一年間の留学を経て、母国アメリカに帰国する際には、ロータリーで学ぶべき知識・経験に対するお礼や、感謝の意味を込めた“慈愛の種”が一杯詰まったタイの花をアメリカへ持ち帰り、その花を咲かせたい—このような事が書かれてあり大変感動しました。

このプログラムの遂行には大変な時間・労力・費用が掛かりますが、本当に素晴らしいロータリーの奉仕活動であり、国際間の親善と理解を推進し、世界の平和に寄与し“慈愛の種を蒔く”ことが出来る事業と確信します。

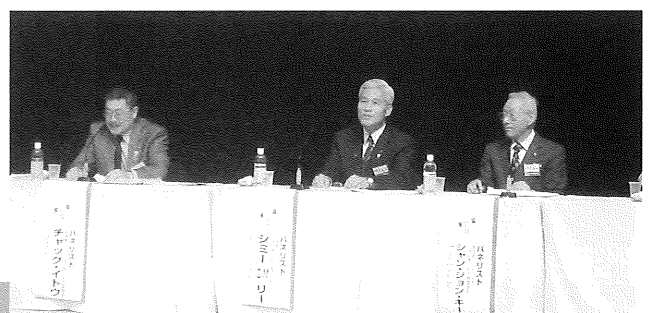
青森会議で皆様にお会いでき、挨拶する機会が与えられましたことを大変嬉しく思います。

本大会が実り多きものとなりますよう、心からお祈りします』

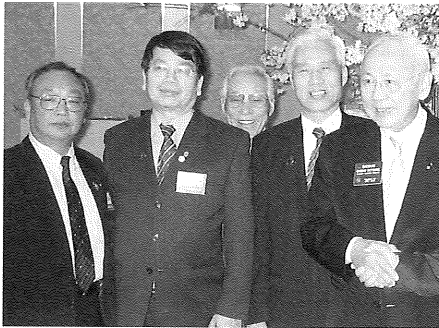
4月26日・27日の2日間、全国から約400名の青少年交換地区委員、関連のロータリアン及びROTEXが参加し、研究会が開催されました。当2760地区からは岡部快園ガバナー・大谷和雄青少年交換委員長・地区委員・ROTEXを含め10名が出席しました。

会議の内容は

*パソコンを駆使した電子アプリケーション体験教室



- * 青少年交換プログラムの過去・現在・未来
- * 交換学生に対する適正な予算
- * 交換学生としての望ましい資質
- * 回避しうるトラブル&トラブルの解決法
- * 各国の青少年交換プログラムに学ぶ



であり、参加者の皆さんは熱く討論し、それぞれの地区に持ち帰り、この大変意義のある実り多きプログラムの高揚に、より一層力を注がれると思います。

第2760地区 ROTEX

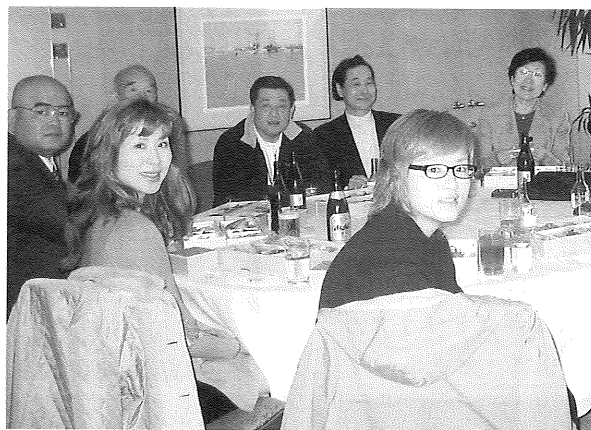
代 表 河合沙織 98-99年ブラジル4580地区派遣
田原パンフィックRC
副代表 宮下恵子 87-88年カナダ 5550地区派遣
西春日井RC

同時進行で開催された今回の第1回ROTEX全国会議の主旨は、各地区単位を基盤に組織されるROTEXの全国ネットワークを構築し、情報交換、相互協力を行い、ROTEXの活動をより活発に向上させるというものでした。全国規模で見ると、すでに長年活動を続けている地区もあれば、私達のように発足して間もない地区、これから発足して行く地区があります。今回は第1回の全国会議ということで、はじめのうちは、活発に活動している地区同士の意見交換がスムーズに行かなかったり、参加者の多くが地区ごとでの現状のギャップばかりに気を取られがちになっていたこともあり、全国規模での統一された見解のもとで連携し活動して行くようにはまとまらなとさえ思われました。しかし、会議を延長したり、時間外にも集まり話し合いを進めるうちに、結局のところ目指しているものは皆一緒なのだ、と各々が確認し合うことができ、その結果、最終日には青森会議に参加されたロータリアンの皆さんの前で、第1回ROTEX全国会議の成果を、非常に良いかたちで報告することができました。

発表の主な内容は、ROTEXとは何か、何のためにあるのか、何ができるのか、それぞれの地区の現状報告、全体また各地区での今後の課題と解決策の提示、2003年度スローガン「ROTEXのMeを育てよう」、ROTEX宣言といったものでした。

2日間という短い期間ではありましたが、青森に集結したROTEX全員が全力を尽くして取り組んだことにより、全国会議は大成功に終わったと確信しています。全国ネットワークが動き出したということで、私達2760地区ROTEXの活動もより

活発に、精力的に取り組んで行かなければならないと考えています。その為にはまず、今回青森会議に参加して学び、得たことなどを他のROTEXに知ってもらうこと、その機会を作ることが必要です。まず、名古屋近郊のROTEXの人員確保から始め、組織・体制等の枠組的な基盤を固めること、具体的な事業計画を提示することも早急に取り組まなければなりません。2760地区ロータリアンの皆さんにROTEXについての理解をより深いものにして頂けるよう、「ROTEXって素晴らしい」、「ROTEXはとっても重要なんだ」と思ってもらえるよう努力すると共に、私達が身を持って経験してきた、ロータリー青少年交換留学という素晴らしいプログラムの可能性を最大限追求して行くことを目標に、今回の青森会議、並びに第1回ROTEX全国会議で学んだことを生かし、情熱を持って当地区のROTEX活動に取り組んで行こうと考えています。2760地区のロータリアンの皆様、温かくお守り下さい。



ROTEXの活動・実施例

ROTEXの同窓会を実施／オリエンテーションに参加／サマー・ウィンターcampに参加／受入学生・派遣候補生にJrカウンセラーとしての相談役／クリスマス会の実施／スポーツ大会の実施／スピーチコンテストを実施／日本文化体験を実施／HPの作成・活用／小旅行の実施／パーベキュー会の実施／来日学生や派遣候補生が楽しみ学ぶことのできるイベントを企画・運営／地区青少年交換委員会のサポート等

[全国地区持ち回り会議・ロータリー青少年交換研究会の変遷]

1994年	第1回岐阜会議	2000年	第7回愛知会議
1995年	第2回仙台会議	2001年	第8回福岡会議
1996年	第3回京都会議	2002年	第9回神奈川会議
1997年	第4回埼玉会議	2003年	第10回青森会議
1998年	第5回大阪会議	2004年	世界大会・関西大会の為 休会
1999年	第6回栃木会議	2005年	第11回東京会議

研究グループ交換（GSE）派遣

イラク戦争の危機を乗り越え、オーストラリアへ5名派遣！

地区研究グループ交換委員会 委員長 深谷友尋

州・ニューサウスウェールズ州・クイーンズランド州）にまたがる地区へ5名のメンバーを派遣することが出来ました。

地区内産業は穀物・牛・羊・果物・野菜・ナッツ類が第一次産業です。その中で特筆する生産物にワインがあります。高品質なワインがアデレードヒルを中心に生産、輸出されており、主要な産業となっています。

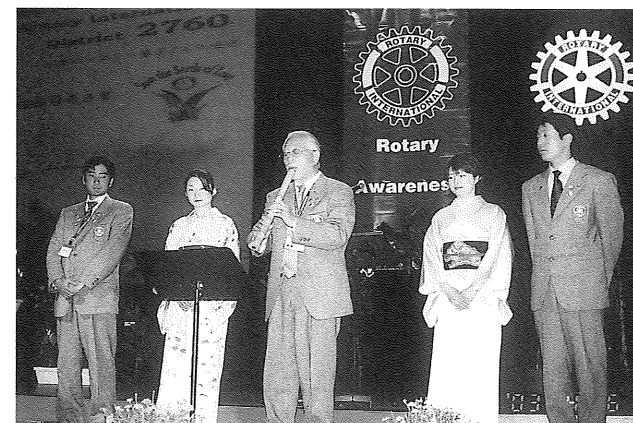
これ以外にも、製造業、鉱業、石油、天然ガスなどがあります。また観光もこの地区内の経済に重要な役割をはたしています。

岡部年度に入り、直ちに募集開始し、昨年10月25日ガバナー事務所にて最終選考を行い、派遣メンバーを決定いたしました。

派遣は本年3月22日より4月19日まで実施しました。



- ・チームリーダー 浅見弥進男
（一宮北ロータリークラブ所属）
- ・チームメンバー 佐藤亜紀子
（株式会社名古屋東急ホテル勤務）
名古屋北RC推薦
- 杉浦 徹
（日本ジュースターミナル
株式会社勤務）
豊橋RC推薦



高木 理加
（株式会社スズケナー宮支店勤務）
一宮北RC推薦

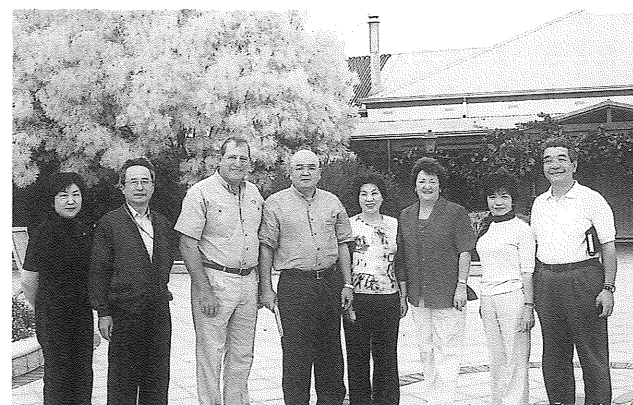
太田 晃二
（東海歯科医療専門学校講師）
名古屋みなとRC推薦

派遣メンバーの職種もバラエティーに富み、本年も優秀なメンバーになりましたが、オーストラリアでのプレゼンテーションの準備は大変時間と努力が要りました。

特に2760地区の文化、経済をどのような方法で紹介するか、より興味をもって聞いていただけるためには…！等、思いは膨らむばかりでした。それぞれ、仕事を終えてからの勉強会になり、深夜におよぶこともたびたびあったと聞いております。

一方、派遣間際に、イラク戦争が開戦となり、オーストラリアは派兵国として、テロ等の危険があるのではと、派遣すべきか、派遣を取り止めるべきかの議論が起き、ここまで、メンバーが寝食忘れて、準備した事を無にすることへの無念さと、人命を尊重すれば、少しでも危険があれば、当然取りやめるべきとの意見に分かれ、最後の壮行会の日まで議論が白熱しました。最後にガバナーご自身より、「ここまで準備してこられたこと、あらゆる情報を参考にして、すべてが安全とはいいがたいが実行しましょう！」と許可を出していただきました時は本当に良かった。

その多くの努力が実り、アデレードでの第9520地区地区大会では、アメリカ オハイオ州からもGSEチームが参加していましたが、圧倒的に日本の着物姿に人



気が集中し、積み重ねてきた練習の成果も十分に発揮し、素晴らしいプレゼンテーションをすることが出来ました。特に浅見リーダーの尺八の演奏には大拍手がやみませんでした。

地区大会にはもう一つの喜びがあります、本年初冬にオーストラリア第9520地区では山火事の大火災が起き、約400軒以上の家屋を失い、大変な被害がありました。そこで、岡部ガバナーより当地区の各クラブに呼びかけていただき、義援金を募りましたところ、邦貨で2,509,000円もの義援金を各クラブよりお寄せいただきました。当初よりアデレード地区大会へ岡部ガバ



ナーご夫妻でお出かけいただける計画を立てておりましたので、その義援金を岡部ガバナーより地区大会の席上、第9520地区 アーサー・ロビンソンガバナーへ贈呈いたしましたところ、会場内われんばかりの大拍手と、スタンディングオベーションの祝意を受けました。誠にやりがいのある活動であります。われわれ参加しましたGSE委員すべての人が、感動に酔いしれました。ロータリアンであることへの喜びを…！

アーサー・ロビンソンガバナーから、この尊い友情を被害にあった地区へ有効に使わせていただくと、感謝を込めてお礼の言葉がありました。

それから、ジョン・シュベルト・GSE委員長が用意していただいたホテルは、私たちにとって忘れることの出来ないホテルになりました。そこは広大な丘陵地のぶどう畑の真中に一軒ぼつんと建っているコテージ風のホテルでした。そこから眺める風景は日本では見ることが出来ません。また夜の満天の星空、そこに輝く星座の下ではいつしか小学生に戻っていました。「あれが天の川かな！」「あれ南十字星でしょ！」「あれはさそり座で尻尾が長いでしょ！」などと時間の経つのも忘れて楽しむことが出来ました。

GSE活動は多くの人々に支えられ、そして、多くの人との出会いを与えていただける、素晴らしいプログラムと今もロータリーに感謝しております。派遣メンバー活動報告はチームより後日させていただきます。

2003
↓
2004年度

地区協議会開催報告

L e n d a H a n d

手を貸そう

地区協議会が、ジョナサンB.マジアベ国際ロータリー会長エレクトのテーマのもと、豊橋ゴールデンロータリークラブのホストにより、4

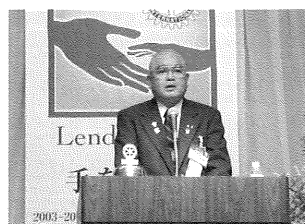


月27日(日)県内クラブより1,600余名が一同に会し、ホテル日航豊橋において開催されました。10年ぶりとなる豊橋地区での開催ですが、幸いにも快晴に恵まれ、参加者も早々と到着され、大変な盛り上がりの中でのスタートになりました。

午前10時30分からの本会議で、岡部快圓ガバナーは、「地区協議会はリーダー教育の場であり、またクラブ活性化の教育の場であります。高い見識を身につけて、世界から不幸を無くすために、ロータリーに邁進し地域社会に貢献してほしい。」と説かれました。

続いて、豊島徳三ガバナーエレクトが、次年度のテーマを『温故知新を旨として』と発表され、環境問題や若者への心の奉仕、【愛・地球博】支援などを柱にしていると話されました。

その後【愛・地球博】について、内藤パストガバナーより『自然の叡智』を縦軸に、『地球大交流』を横軸に2005年3月15日から9月15日迄の期間、海上地区、青少年公園地区で開催との説明がありました。海上地区は自然との共生をカタチにするメモリアルゾーン。青少年公園地区は世界からの知恵と楽しさが集い『地球大交流』を体感するにぎわいゾーン。『美しい地球、未来の市民のために』と言うテーマがロータリーの主旨に合致し、青少年公園地区に建設される【ロータリー館】には、ロータリー100年祭に因んだものを展示すると共に、交流スペースにて



愛知県内のクラブは開催中にそれぞれ2回の例会をと要望されました。

ホストクラブ又平会長も歓迎の挨拶を述べ、岡部ガバナーから豊島ガバナーエレクトへ、ガバナーズエンブレムの引き継ぎが行われ、次期地区協議会ホストクラブとして春日井ロータリークラブが発表され午前の本会議が終了しました。

午後からの分科会では、ガバナー経験者にもアドバイザーとして参加して頂き、9分科会にわかれて始まりました。第1分科会は岡部ガバナーをリーダーとして、次期会長、幹事、会計の皆さんを対象として行われ、各クラブのリーダーとして最初に方針決定をし、それをクラブメンバーにもれなく浸透させ、奉仕を実践することの大切さを指導されました。その他、会員



増強、各種奉仕活動、一般会員に向けた8分科会では、運営、知識向上について研鑽に努めました。

豊島ガバナーエレクトは9分科会会場での閉会の点鐘を御自身で全て行い、次年度に對しての熱意を示され、午後4時頃全ての行事が終了し閉会となりました。

関係各位、ご参加の皆様のご協力により無事終了することが出来ましたことを厚く御礼申し上げます。なお、限られた会場での設営で、何かと御不便をお掛けしたと思いますがお許しを頂きたく存じます。豊島徳三ガバナーエレクト、瀧義孝次期地区幹事をはじめ地区スタッフの皆様のこれからの1年間のご活躍を心からお祈り致します。





岡崎東ロータリークラブ 創立30周年記念

日時 2003年4月17日

場所 岡崎名鉄ホテル

昭和48年4月20日、岡崎RCをスポンサーとして創立され30年を経過。本年4月17日(木)に岡部快

園ガバナーを迎え、記念例会を開催いたしました。岡崎市長柴田紘一様、額田町長鈴木啓充様や、姉妹クラブ長野松本RCの第2600



地区ガバナー三村昭平様をはじめ、多数の皆様方の参加を得て、盛大にとりおこなうことが出来ました。

当クラブでは以前より河合中学校に対するゲンジボタル育成活動とか、形埜小学校に対する河川

水質調査等々に対して助成を行い、環境保全に関心をもって当たって参りましたが、記念事業を行なうに際しても地域社会に貢献し、環境問題に配慮し、しかも会員が汗して奉仕を行なおうとの試みで、一つは岡崎市の水源である額田町の見晴らしのよい場所にある262米のおおだの山に、桜・紅葉等をうえ、住民のいこいの里を作ろうとの趣旨に賛同、会員に額田町長を混じえ、鍬とスコップを担いで、急な坂道を登り植樹を行い、尚山頂付近に屋外用トイレユニットを寄贈、岡崎市には最新のハイブリット軽乗用車を寄贈し環境浄化の一端として宣伝活動に使用していただき、又岡崎市民病院に対しては腎透析用のデジタル式スケールベッド及び大中小の高級車椅子を寄贈致しました。



又伝統文化への貢献として矢作北小学校学童を中心とする長瀬楽人会に対し、箏・箏・笙・龍笛等の雅楽器を寄贈し、記念例会の会場に於いて皆様方に演奏を御披露申し上げました。又当クラブの提唱のもと誕生致しました光が丘高等学校インターアクトクラブでは、学校のすぐれた方針と相俟って、博愛の精神と積極的な行動力で、その後愛知県でも有数のクラブに成長し、本年設立10周年を迎えました。今回30周年記念事業の一端としてエゴの木を共同で記念植樹し、クラブ会員と共にポリオ撲滅基金の街頭募金を行い、助成金に会員のポケットマネーを加え、インターアクトクラブより岡部快園ガバナーに贈呈



されました。あわせてロータリー財団並びに米山記念奨学会へも寄付を行いました。

その後宴に移り、豊島徳三ガバナーエレクト様と赤羽弘久松本東RC会長様より当地との深いつながりについて、真に楽しくも心温まるお話を伺い、座の盛り上がった所で当クラブ杉浦多美夫君のアカーディオンに合せ、即興のポリオ基金のチャリティー募金を行い、皆様の協力で現金10万円程を岡部ガバナーにお渡しすることが出来、楽しいひと時を過ごすうちに閉会することが出来ました。



りについて、真に楽しくも心温まるお話を伺い、座の盛り上がった所で当クラブ杉浦多美夫君のアカーディオンに合せ、即興のポリオ基金のチャリティー募金を行い、皆様の協力で現金10万円程を岡部ガバナーにお渡しすることが出来、楽しいひと時を過ごすうちに閉会することが出来ました。

ロータリー財団奨学生レポート..... NO.1

当地区からは18名の財団奨学生を海外に送り出しています。その親善大使の元気な活動を現地から生のレポートとしてお届けします。(2003年3~4月現在)

（ 休みに対する執念と、 絶え間ないおしゃべり ）

佐藤大輔
留学先 フランス



財団奨学生として2001年よりフランス、リヨン第二大学博士予備 (DEA) 課程に留学しております。昨年、授業単位をすべて取得してしまったため、今年は、専門の18世紀末フランス美食思想の成立に関する論文を作成しながら、大学の研修としてリヨン商工会議所で、日本地区担当者の手伝いをしています。来仏直後は、フランス名物のさまざまな生活上のトラブルに見舞われ大変でしたが、今ではフランス社会に溶けこむためのいい経験であったと思っています。現在は、こういったトラブルにも慣れ、新しくリヨンにいらっしゃる方々に情報を提供したり、お手伝いするまでになっています。

さて、わたしの住むリヨンは、パリからは500キロ、マルセイユからは300キロの距離に位置し、マルセイユに次ぐフランス第三の都市です。街の中央をローヌ河とソーヌ河が流れ、ローマ時代はガリアの首都として、中世からは商業の街、絹の街として栄え、現在ではユネスコの世界遺産に登録されています。リヨンでの生活は、ヨーロッパで8番目を誇る経済圏でありながら、パリの半分ほどの物価、家賃で、快適に暮らすことができます。また、北ヨーロッパと南ヨーロッパをつなぐ便利な位置にあるため、地中海に海水浴、アルプスにスキー、パリでショッピングといったことも日帰りで可能です。食べ物は、「フランス料理の首都」との評判通りで、ポール・ボキューズをはじめとする星付きレストランがリヨンとその周辺にたくさんあります。また、普段食べる野菜、果物、食肉の質のよさと安さ、内陸でありながら刺身で食べられる魚の新鮮さは特筆に値します。

フランス人を1年半もの間、観察していて共通する特徴は、休みに対する執念と、絶え間ないおしゃべりです。平日は店も会社も学校も最低2時間の昼休み。家で食事をとりに帰る人も多くいます。バカンスは年間6週間ある上に、仕事は週休2日、週35時間で、それ以外は絶対働きません。一般的にフランス人が元気なのはこういった理由かもしれません。もうひとつは、よくしゃべること。とにかく、朝から晩まで、仕事中でも食事中も話し続けています。フランス人に言わせれ

ば、いついかなる場合にも自分の考えを主張するのが重要だそうですが、どうでもいい話題の場合でも全力で議論するフランス人らには、正直、感心するやらあきれるやら。というわけで、このようなおしゃべり好きなフランス人のなかで日本人が会話の主導権を奪うには並大抵なことではできません。先日も、ロータリーの例会でスピーチをしたところ、静かにしていたのは最初のほうだけで、私の専門の料理の話をしたところ、大議論が始まってしまい、結局はスピーチはうやむやになってしまいました。

最後になりましたが、残りの期間、引き続き日本とフランスの国際親善に貢献していきたいと考えております。ありがとうございました。

（ 留学生生活 6 ヶ月 (イギリス・キール大学より) ）

山中仁美
留学先 イギリス



名古屋北クラブを中心としたロータリアンの皆様のご支援を受け、日本に秋が訪れる頃に渡英してから、早くも6ヶ月の月日が経ちました。「寒い・暗い・天気が悪い」三重苦と言われるイギリスの冬を乗り越え、間もなく春を迎えます。4月にはキリスト教の復活祭 (イースター) という休日がありますが、「復活」という言葉には宗教上の意味の他に、厳しい冬から美しい春へ、生活や気持ちを新たに人々の期待が込められているのかも知れません。16時過ぎだった日の入りが19時、20時と延びてゆく様子に、美しい日本の四季の移り変わりとはまた違った自然のダイナミズムを感じています。

私は現在、イギリスのキール大学に学んでいます。「キール」という地名は、イギリス全図のどこを探しても見当たらず、渡英前に少し困惑した記憶がありますが、村の名前であると判明しました。イギリス最大級の敷地を誇る大学自体が一つの村のように存在し、敷地とは逆に小規模な数の学生と職員のほとんどが、銀行からスーパーまで揃う広大なキャンパス内に暮らしています。日本の都市型大学とは対極の形態にあると言えるかもしれません。最寄りの都市Stoke-on-Trentは、イギリス人には「陶器の里」として名高い場所です。日本でも人気のウェッジウッドやロイヤル・ドルトンといった一流ブランドの工場が密集し、世界各国

の陶器好きが工場見学や直売品の買い物に訪れます。実際に、高級食器が日本の百貨店の半値以下で売られているのを目にした時には驚きました。

私はこちらの大学院博士課程で国際関係学を学んでいます。キールの同学部は全英のトップ10に入り、教授陣の指導にかける熱意は相当なものです。言い換えれば学生に求められる水準も高く、私も時には1日10時間以上机に向かって必死で課題に取り組んでいます（「勉強しない日本の学生」の汚名を雪げれば良いのですが）。折しも3月現在、国際社会は緊張の度合いを高めており、国際関係を学ぶ事の意味や難しさを仲間の院生たちと考える機会も増えました。

このようなハードワークの清涼剤となっているのが、ロータリー奨学生としての活動です。受入れ先の1210地区にはカナダからの奨学生がもう一人いますが、二人とも地元クラブの食事やお茶に頻繁に招かれるなど、温かいサポートを受けています。私のカウンセラー・元学校長のDavid Williams氏は、私と同年の娘さんがいることもあり、実の親のように日々の生活や奨学生としての活動を支えて下さっています。様々な町を訪れてのスピーチでは、故郷の「ナゴヤ」や「アイチ」について語り、今まで「トーキョー」しか知らなかったという人々に、日本の地域的多様性を伝えています。その結果、最近では「万博を機に一度訪れてみたい」といった声も聞かれるようになりました。帰国後は是非、愛知のロータリアンの皆様からの「イギリスについて知りたい」という声にも応えられればと思っています。専攻する国際関係学が机上の学問で終わらぬように、今後もロータリー国際親善奨学生という得難い肩書きを活かして、国際交流に努めていきたいと考えています。

（ 翻訳は自己表現の手段のひとつで芸術だ ）

中山政雄
留学先 タイ

私は現在タイ王国のチュラロンコーン大学の大学院で経済学を勉強しています。入学は昨年6月ですので10ヶ月になります。卒業はあと一年掛かりそうです。コースワーク自体は今年の5月には終了し、修士論文が完成し次第卒業になります。

授業はタイ語で行われます。入学前は、タイ語が最大の障害になると思っていましたが、現在最も頭を悩ませているのは数学です。モデルを自分で構築するだけの数学的素養が自分にはまだありません。ちょっと手遅れかも知れないと思いつつ数学の勉強に励んでいます。

大学での友人は非常に多いです。私のコースにラオス人、タイ人以外が入学するのは初めてなので非常に珍しがられています。大学院には300人ほどの生徒が

いますがほとんどの生徒が私のことを知っています。

バンコクは現在では交通機関も発達した先進都市となっており生活に不自由することはありません。食生活においても日本料理店が多数あり、料金もタイ料理よりも少し高い程度です。私はスポーツ新聞を読むためによく《ラーメン亭》という日本料理店に行きます。NHKの放送も有料ですが見られます。しかし視聴料が3000円と高額な為私は見ていません。

気候的には非常に暑いですが年中同じような気温の為適応するのは難しくありません。むしろ日本の寒暖差の大きさの方が人間の生存にとって厳しい条件ではないかと思います。

ただ車からの排気ガスには閉口しています。こちらは日本では廃車になっているような古い車が多く大量の黒煙を撒き散らして走っています。またトゥクトゥクという自動三輪車は新旧にかかわらず公害源となっています。

タイは生活費が安いのでロータリー財団の奨学金だけで十分生活が可能です。翻訳、通訳のアルバイトもしています。通訳のアルバイトを通じていろいろな人に合うことができる為です。ラグビーの向井昭吾日本代表監督やフラメンゴの小松原さん等の通訳をすることができました。翻訳は自分にとっては自己表現の手段のひとつで、芸術だと思っています。

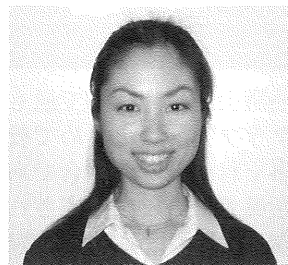
タイでは現在日本に対する関心が非常に高まっており、日本料理も流行しています。以前はタイ人はタイ料理以外は受け付けない体質でしたが徐々に国際化しつつあるようです。日本語もブームとなっていますが単なるファッションとして消費されることが多く、話すことのできる人はまだ少ないです。

タイは観光地としては非常に多様性に満ちた魅力的な国です。ロータリアンの皆さんも一度遊びに来て下さい。ロータリー事務局を通して事前にご連絡いただければ案内いたします。

（ トロントの留学生活 ）

馬場今日子
留学先 カナダ

トロントにおける普段の留学生活について書きたいと思います。私はトロントに住み始めて1年9ヶ月になります。トロント大学オントリオ教育研究所の博士課程に在籍し、「第二言語教育」という教育学と言語学の間のような分野の研究をしています。ここの研究所は私の分野では世界で一、二を争う高い研究レベルを誇るそうです。私は最初の一年半ほど英語に対するひどい苦手意識があり、英語母語話者や英語圏で修士号を取得した学生にコンプレ



ックスを持っていました。しかしその後、全ての学生がそれぞれのハンデを抱えながらそれぞれのやり方で個人的に戦っているということが分かってきました。私は英語母語話者にはない発想と勉強にさけるたくさんの時間を武器にできる限りの努力をしています。必然的に私の今までの人生で最も必死に勉強をすることになりました。常に締め切りに追われ、4、5時間睡眠で朝4時から論文を仕上げることもさほど珍しくありません。けれども基本的に研究は楽しいですし、研究中により考えが浮かんだり新しい思想に出会ったりすると自分は幸せだと強く感じます。私はロータリー財団の支援を受け、この素晴らしい研究所で好きな勉強ができる機会を与えられたことを大変有り難く思います。お陰様でこちらに来てから英語の論文を二本出版することができました。

院生生活で重要な問題は精神と身体の状態を良好に保つことです。私は運動をすること、友人達と出かけること、栄養のある食事をするを心がけています。どれも当たり前のこととはいえ、実践するのはなかなか難しい。運動についてはトロント大学の充実したスポーツ設備を利用しています。今はジョギングを気に入っていて、週一回まるで瞑想をしているようだと思っています。また大学が提供しているサル

サヤベリー・ダンスのクラスに通ったりもしています。一週間か二週間に1回は友人と中華街に食料を買いに行きます。ダウントウンの中華街のすぐそばにはケンジントン・マーケットという南米の食料を主に販売している一帯もあり、ぶらぶら歩くには楽しいところです。統計によればトロントは世界で最も文化の多様化が進んでいる街です。そうして街を歩きながら様々な人の姿かたちを観察するのを私はことのほか好んでいます。日本も今後文化が多様化すると思いますが、そんなトロントの様子を日本の皆様にもお伝えできればと思います。

カナダに来ることができて良かったと最近ますます強く感じるようになりました。私は今回の対イラク戦争に反対していますが、アメリカの兄弟のように見られていたカナダがこの戦争に不支持を表明したときは驚きました。カナダのChretien首相はアメリカからの援軍要請の強い圧力を毅然としてはねつけています。常日頃からカナダ人の倫理を尊重する生活態度に感じていた私は、このカナダの国としての態度にさらに感銘を受けました。そのようなカナダの美点を学び、日本に帰国した後何らかの形で生かすことができればと考えます。

2003～2004年度

地区協議会指導者会議報告

日時／平成15年3月29日(土) 13:00

場所／名鉄グランドホテル

参加者／73名



地区協議会のホストクラブの豊橋ゴールデンRC地区協議会実行委員長 宮川嘉朗氏の開会のご挨拶につづき、岡部快圓ガバナー、豊島徳三ガバナーエレクト、次期地区研修リーダーの野村重彦パストガバナーよりご挨拶がありました。

3名の方々からは、地区協議会が年中行事で最も重要な地区会合であり、次期クラブ指導者を集めて教育し、知識を授け、激励する事を目的とした会合であるゆえの指導を、参加された指導者の方々に徹底されました。続いてホストクラブ会長挨拶では又平雅之豊橋ゴールデンRC会長より、ホストクラブとして責任ある立場での決意と、協力依頼がありました。続いて、松崎進地区協議会副実行委員長より当会でご指導いただくパストガバナーの方々のご紹介があり、全体会議へと移りました。全体会議では宮川嘉朗実行委員長より最初に地区協

議概要説明の後、当日のタイムスケジュールの説明、本会議のプログラムの説明、会場が今回はホテル(ホテル日航豊橋)で行われるため、分科会会場その他について詳細説明がありました。次に、大森克孝次期地区副幹事より指導者会議の説明があり、第二部では各分科会毎に当日のプログラム内容について検討がされました。その後、第1分科会はアシスタントリーダー瀧義孝次期地区幹事(一宮北)、第2分科会はリーダー片山主水次期地区クラブ奉仕委員長(名古屋東南)、第3分科会はリーダー関口宗男次期地区職業奉仕委員長(名古屋みなと)、第4分科会はリーダー大野義彦次期地区社会奉仕委員長(岩倉)、第5分科会は吉野勝己次期地区国際奉仕副委員長(豊橋南)、第6分科会はリーダー藤井忠次期地区新世代委員長(西春日井)、第7分科会はリーダー鈴木孝則次期地区ロータリー財団・地区補助金委員長(あま)、第8分科会はリーダー加藤知成次期地区米山奨学委員長(東知多)、第9分科会はアシスタントリーダー黒木義公次期地区副幹事(一宮北)より発表がありました。予定時間を超過するほどの熱が入った発表が終わり無事終了しました。



大府ロータリークラブ

創立総会

平成15年4月10日(木)

2003年4月10日(木) 大府RCは創立総会を迎えました。

2002年8月31日、スポンサークラブの東知多RCの臨時総会において、拡大が投票により決定されました。10数年来の懸案事項であった拡大がついに決定された瞬間でした。

一番の難問となっていた例会場も、大府市役所の庁舎が建て替えられたことによって、幸運にも商工会館をお借りする事が出来るようになるなど、時代の流れと共に問題が解決していくという、何か運命的な大府RCの創立だと思わざるを得ませんでした。岡戸特別代表、東知多RC会長そして28名の大府RC会員会員の友情と熱意に支えられ、また岡部ガバナー、伊藤地区幹事、野崎拡大委員長、分区の仲間に見守られ、無事創立総会を終える



事が出来ました。

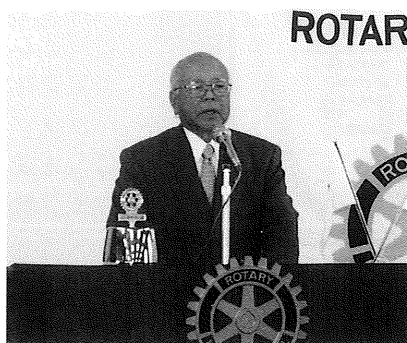
今後は、ロータリークラブの一員として、その名を汚さぬよう、頑張っている所存です。先輩諸兄の暖かいご指導を賜りますようお願い申し上げます。

尚、例会は木曜日午後7時から、大府商工会議所会館3Fホールで開催しております。

ご来訪をお待ち申し上げます。

事務局 TEL 0562-44-6210

FAX 0562-44-6280



第2回

環境保全委員長会議

平成15年3月27日(木) 於：ウェスティンナゴヤキャッスル
地区環境保全委員会 委員長 國分孝雄

会議には岡部快圓ガバナー、豊島徳三ガバナーエレクト、伊藤宏地区幹事、藤田徹地区副幹事、太田達夫・伊藤康司ガバナー補佐、福田浩三・野村重彦・太田賢太郎パストガバナー、ホストクラブとして名古屋和合RC佐橋嘉彦会長、天野清美幹事を始め、地区内79クラブの環境保全委員長、社会奉仕委員長等100名以上が参加し、基調講演と4クラブからの活動事例報告という構成で行われました。

基調講演では愛知県環境部環境政策課主幹大久保裕司氏が「環境教育は未来を開くか」をテーマに「環境教育は知識だけでなく、体験しそれを通じて考えさせることが大切である」と強く訴えられました。

次に環境保全活動では、蒲郡RC小田康資社会奉仕副委員長が「県立三谷水産高校と協力し

て、三谷小学校の生徒が豊川水系にアユの稚魚を放流する事業の支援」、半田南RC榊原清則前環境保全委員長が「環境保全シンポジウムー子どもサミットーの開催」、名古屋栄RC酒向徳保社会奉仕委員長が「環境



シンポジウムーエネルギーから環境を考えるーの開催」、豊田中RC渡辺高紹環境保全委員長が「西広瀬小学校の矢作川水質調査活動の支援」について、それぞれ内容のある事例が報告されました。

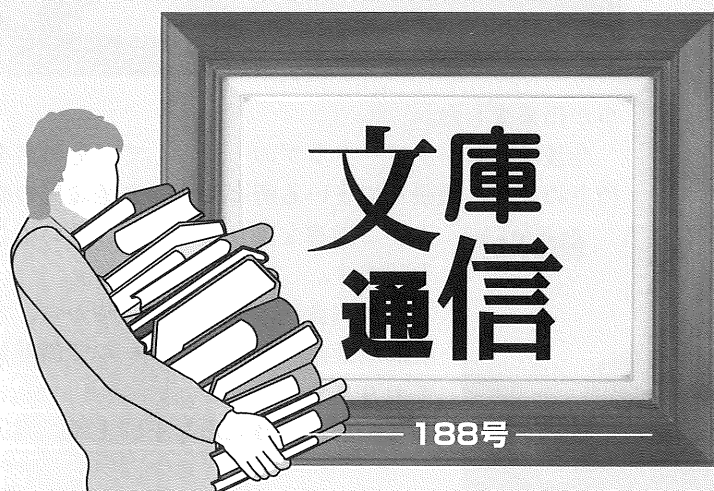


新しい仲間

吉野 育志 (犬山)
 紀藤 政司 (犬山)
 浅野 安郎 (江南)
 武田 房行 (江南)
 中島 仁 (江南)
 片平 博己 (江南)

藤掛 庄市 (江南)
 藤嶋 洋一 (名古屋空港)
 鶴見 俊成 (名古屋中)
 山本 政永 (名古屋西)
 入江由希子 (名古屋名北)
 山田 康之 (岡崎)

花野 弘三 (岡崎)
 上原 哲郎 (岡崎)
 鳥居 博行 (安城)
 加藤 典男 (西尾)
 穴戸 秀隆 (西尾)
 川畑 初恵 (三河安城)



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして、1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧はもちろん、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介をいたします。

先輩ロータリアンの主張から (2)

- ◎「ポール・ハリス ロータリーへの道」
 チェスリー R. ペリー
 ロータリーの友：1968・2月 4 p

- ◎「会長独白」
 佐竹郁夫 1978 8 p

- ◎「短いロータリーの話」
 大阪RC 1972 14 p

- ◎「ロータリーにおける小さな教訓」
 チャールス G. テネント
 若松徳衛訳 1979 4 p

- ◎「ポール・ハリスの口授」
 中西進 1985 2 p

- ◎「新人のためのロータリー情報」
 佐々木統一郎 7 p

- ◎「道と術」
 佐々木統一郎 3 p

- ◎「多種多様の中の調和と個人の確立」
 佐々木統一郎 1971 11 p

- ◎「ロータリー発祥の背景」
 佐々木統一郎 1975 19 p

- ◎「献身的ロータリアン群像」
 松本兼二郎
 ロータリーの友：1979・1月 8 p

- ◎「“発見”の歴史を回顧する
 ロータリー創立80周年にあたって」
 ジョニー・ニュージェント
 ロータリーの友：1985・2月 5 p

[申込先：ロータリー文庫 (コピー)]

ロータリー文庫
 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7F
 TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>
 開館/午前10時～午後5時 休館/土・日・祝祭日

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

徳田 滋俊 様 (名古屋中) 小野 計平 様 (豊川) 尾崎千代蔵 様 (田原)
 太田 宣雄 様 (岡崎東) 大矢栄太郎 様 (名古屋みなと)

会員数及び出席報告 (平成15年4月分)

分 区	クラブ名	会 員 数		入 会		退 会		例 会 数	4月 出席率	女 性
		2002年 7月1日	2003年 4月末日	4月	累計	4月	累計			
南 尾 張 分 区	半 田	70	71	0	2	0	1	4	99.60	4
	常 滑	59	60	0	4	0	3	3	96.08	0
	東 海	55	55	0	2	0	2	4	93.64	3
	東 知 多	62	32	0	1	0	31	4	82.96	0
	半 田 南	58	56	0	2	0	4	4	95.75	1
	知 多	36	35	0	4	1	5	3	91.56	0
	6RC	340	309	0	15	1	46	22		8
西 尾 張 分 区	一 宮	80	80	0	3	0	3	3	99.10	0
	津 島	80	81	0	3	0	2	4	99.28	1
	尾 西	42	40	0	0	0	2	4	95.00	0
	稲 沢	65	62	1	1	0	4	4	94.30	0
	あ ま	93	90	0	3	0	6	3	97.23	0
	西春日井	40	41	0	3	0	2	4	99.39	2
	尾張中央	51	50	0	0	0	1	4	97.60	0
	一 宮 北	63	63	0	2	0	2	4	95.32	0
	一宮中央	64	61	0	3	0	6	5	97.67	5
	9RC	578	568	1	18	0	28	35		8
東 尾 張 分 区	瀬 戸	82	84	1	4	0	2	4	100.00	4
	犬 山	84	88	2	5	0	1	4	99.03	0
	江 南	67	68	1	5	0	4	4	94.41	1
	小 牧	70	76	1	8	0	2	4	80.71	2
	春 日 井	80	76	0	1	1	5	4	97.50	4
	尾 張 旭	46	40	0	1	1	7	4	98.76	0
	名古屋空港	54	55	1	4	1	3	4	100.00	0
	瀬 戸 北	74	73	0	0	0	1	4	100.00	3
	岩 倉	27	24	0	0	0	3	4	94.79	0
	豊山一城北	35	36	0	4	0	3	4	96.10	1
	愛知長久手	20	22	0	2	0	0	3	92.00	2
	11RC	639	642	6	34	3	31	43		17
西 名 古 屋 分 区	名 古 屋	197	203	1	20	2	14	5	94.27	0
	名 古 屋 西	118	118	1	9	0	9	5	91.56	0
	名 古 屋 南	121	122	0	9	1	8	4	93.44	0
	名古屋みなと	99	95	0	2	0	6	4	100.00	0
	名古屋東南	81	81	0	5	0	5	4	97.24	5
	名 古 屋 中	145	142	0	2	1	5	3	98.53	0
	名古屋瑞穂	81	78	0	2	1	5	4	95.49	0
	名古屋大須	68	68	0	2	0	2	4	96.74	0
	名 古 屋 栄	80	81	5	8	1	7	3	98.75	0
	名古屋名駅	101	102	1	9	1	8	4	96.83	2
	名古屋名南	80	83	0	3	0	0	4	97.60	14
	名古屋西南	55	54	0	6	0	7	4	97.50	8
	12RC	1226	1227	8	77	7	76	48		29
	平均出席率	79	95.90							

平均出席率 79 95.90

地区内クラブ数 79RC	2002.7.1 会員数	5,737名	増加会員数 (累計)	266名
	当月末会員数	5,675名 (内女性123名)	減少会員数 (累計)	328名
	当月平均出席率	95.90%	差引純増会員数 (累計)	▲ 62名

表紙を語る

百華文耳付大壺

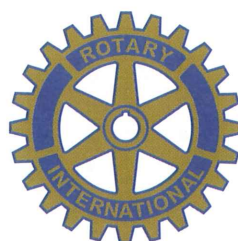
(ひゃっかもんみつきおつぼ) 明治時代
名古屋市瑞穂区 名古屋市博物館蔵

七宝焼といえば愛知県の伝統工芸と呼ぶにふさわしいのですが、その歴史は古くはなく、幕末に登場した名古屋の梶常吉という人物によって始められました。常吉はやつの思いで手に入れた舶来の七宝製品を粉砕して製法を探り当てましたが、その製法を隠さず広く公開したため、今のように愛知県を代表する産業となったのです。

この大壺は、藤の花と四季の草花が咲き誇る中を鳥が飛び交うという構図で、高さが93cmもあります。安藤七宝店の製造で、天皇家に献上されたのち、梨本宮家を経て朝鮮の李王家に渡ったことが外箱に墨書されていますが、それにふさわしい出来ばえです。

(名古屋市博物館 学芸員 鳥居和之)





ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760

国際ロータリー第2760地区
ガバナー 岡部 快圓

〒460-0011 名古屋市中区大須2-21-47 大須観音宝生院内
TEL 052-229-8110 FAX 052-232-1023
URL : <http://www.rotary2760.org>
E-mail : governor02-03@rotary2760.org
